

## 特別寄稿

### 三角ベースの草野球



久保田 英夫 (第5期)

私は小学四年の頃から野球に熱中していた。

戦後間もない物不足の時代で、殊に新潟の田舎では野球の道具など手に入らない。道具はみな代用品だった。

雪どけとともに長い冬から漸く解放されて、黒い地面が現れ野外で思う存分遊べる季節がやってくる。

ボールは芯にコルクと里山で採ったぜんまいの綿を詰め、タコ糸でぐるぐる巻きにしてさらに丈夫な布を縫い合わせて作った。

バットは古い竹竿を適当な長さに切って使い、グローブやミットはなく野手は素手でボールをキャッチした。

キャッチャーだけは特性のミットを使っていた。そのキャッチャーミットは、近所の野球好きの仕

立屋のおじさんが、オーバー地の切れ端を使い、型に合わせてミシンでしっかり縫って、中に古い綿を詰めて器用に仕上げたものだ。

日曜日には、近所の仲間を誘って早朝から近くの神社の境内で三角ベースの草野球に興じる。

十人も集まれば二組に分かれて直ちにプレーボールだ。

狭い境内では二塁を省き一塁、三塁、本塁の三角ベースで、それぞれのベースには板切れを適当な間隔で配置した。

ランニングシャツに半ズボン、素足の身支度で、ルールは自分たちで作リツーアウトで攻守交代、試合は5回までということにしていた。

雨の日曜日などは町内の公民館の一室で、野球盤ゲームなどで遊んだ。

大抵の場合、対戦相手のチーム名は巨人、南海ファンのわが軍はチーム名をホークスとした。

攻撃にまわったときの巨人軍は、一番千葉、二番白石、三番青田、四番川上という不動の打順、守る南海ホークスは、ピッチャー柚木、捕手筒井、一塁飯田、二塁安井、三塁山本、ショート木塚と、自分たちが当時のプロ野球選手になったつもりで布陣を固めた。

このようにプロ野球の選手の名前を次々と覚えて、学校では習わない漢字を知ることができて得意になっていた。

毎朝、新聞のスポーツ欄をまず開きプロ野球のきのうの結果を知り、個人の打撃成績にも目を通したので、いつもベストテン上位にいる大映の小鶴誠、阪神の別当薫などかなり難しい漢字も読むことができた。

そんなころ、学校の図書室で『藤村読本』を見つけた。野球のことだけが頭にあった私には、この本は阪神タイガースの四番で強打者の藤村富美男の伝記と早合点、内容も確かめずに借りて家に持ち帰った。

阪神では後に田淵選手や掛布選手がミスタータイガースと呼ばれたが、藤村はその初代ミスタータイガースである。物干し竿のような長いバットを

振り回すことで人気があった。

夕食後、その『藤村読本』を開いてビックリ。どのページをめくっても野球のことなど何一つ触れてない。

『藤村読本』が明治の文豪、島崎藤村の主な作品をやさしく解説した書物であることは、中学生になって初めて知った。

国語の教科書に「木曾路はすべて山の中にある」で始まる彼の代表作『夜明け前』や、詩集『若菜集』の一節など、出てくるたびにあの『藤村読本』を思い出す。

あれから 60 年たった今、夏休みなどに千葉や横浜に住む息子たちが孫を連れて、八王子の我が家にやってくる。

近くの公園で、孫を相手の親子三代の三角ベースの野球ごっこをやる。昔と違うのはボールもバットもプラスチック製を使う。

今年、小学校に入学したばかりの孫娘は特にこの遊びが大好きだ。

彼女はバッターボックスに立ってボールを打つ間ぎわに片足をあげ、あのイチロー選手の独特のバッティングフォームのまねをする。さらにバットにボールが当たると三塁方向に走っていくのがおもしろい。

この孫たちに「好きな野球選手は」と聞くと、「イチロー」と答えが返ってくる。これでは漢字の勉強にはならない。

でも好きなタレントとなると「嵐」の桜井くん、二宮くん、松潤という。

名前がポンポン飛び出す。サッカー「なでしこジャパン」の澤穂稀や川澄選手なども知っている。今の子供たちはこんなことから学校で教わらない漢字を覚えていく。

このエッセイ「三角ベースの草野球」は、新潟市が2007年から始めた『ふるさとへ贈る手紙』事業の第6回目(2013年)に応募したものです。「千の風になって」の新井満さんと星野知子さんによる最終審査の結果、幸運なことに奨励賞をいただきました。(久保田英夫)



新潟県長岡市 山古志の棚田

☆☆☆

## 宮本武蔵 vs 佐々木小次郎



平松 信実 (第 23 期)

1 月に MBI の菅野さんらとラグビー観戦に行った。寒い日で、試合は負け、帰りがけにお茶でもしようと喫茶店に寄った。MBI 同期の塚さんが一緒に、話が東大剣道部からフランスに剣道指導に行った吉村兼一の話になった。彼は私の都立西高の同期である。フランスが気に入って大学を中退、そのままフランスに残って剣道指導を続けた。今や剣道八段で、フランスの有名人。しかも剣豪小説を書いている。

私「確か伊藤一刀斎を書きましたよね」

塚さん「今は宮本武蔵を書いている。彼の本は面白いよ」

私「宮本武蔵を書く作家は多いですね。誰も興味を惹かれますからね」

そこから私が“宮本武蔵論”を始めた。実は高齢者向けのあるサイトに掲載するつもりでちょっとした記事を書いたのだが、「没」となり陽の目を見なかった。しかし、その時の皆さんには少しだけ受けた？

菅野さん「平松さん、せっかくだからその原稿をクロスロードに載せていただけませんか」

ということになった。枕(落語用語)はここまで、以下その記事に入る。

坂口安吾の『青春論』に宮本武蔵が論じられている。武術専門家の吉田精顕氏の『宮本武蔵の戦法』を下敷きにしているのだが、その宮本武蔵像が面白い。

宮本武蔵像の古典は、吉川英治が昭和 10 年代に朝日新聞に連載した『宮本武蔵』である。この連載が始まる前、菊池寛と直木三十五の間で宮本武蔵像を巡る論争があった。菊池寛が武蔵を剣の達人としたのに対し、直木三十五はそうでもないと主張してお互い譲らなかった。二人が吉川英治にどう思うかと尋ねた結果、吉川英治は新聞連載小説を書いて、彼の答を出した。吉川英治の武蔵は沢庵に出会って目覚め、剣禅一如の修行の旅に出る。数々の武芸者との真剣勝負のうちに武蔵は剣と己を磨き道を究めて行く。

坂口安吾の宮本武蔵像は少し異なる。

武蔵は勝つためには手段を選ばない。常に意表を衝く戦法で相手を倒す。果し合いの時間を守らない。遅れて行く、先回りして隠れている。勝つために、いかに優位に立つか、全て勝負の駆け引きと考えた。そこには道を追求して已まない武芸者の面影は無く、動物的鋭さを持ち、勝つことに徹した剣術家がいる。

クサリ鎌の達人宍戸梅軒と戦った時、武蔵は二刀流で対抗した。片方の刀をクサリ鎌の分銅の回転に合わせて動かしながら相手を制し、もう一方の刀で斬り伏せた。

剣法には固定した型は無い、相手と状況に応じて常に変化するというのが武蔵の考えであった。柳生流には大小 62 種の太刀があって、これを用いたあらゆる型を学ばせていたが、武蔵は変化は無限なので幾ら型を覚え込ませても実戦の役には立たないと、柳生流を厳しく批判した。

佐々木小次郎との考え方にも大きな相違があった。

佐々木小次郎は橋の下をくぐる燕を斬って速捷（そくしょう、剣先の早いこと）を会得した。小次郎は、初太刀をかわして燕が身をひるがえす時、その身をひるがえす速力より早い速力で斬るという相対的な速力を重視した。切っ先の速度を上げるため、小次郎は三尺余寸の物干竿と呼ばれる長剣を使った。

武蔵の考えでは、上回る速力で燕を斬ったとしても、更に早いものは斬れない。速力には限界がある。武蔵は、いかなる速力にも応じられる観察眼とその戦法が肝心と考えた。

武蔵は巖流島の決闘に向かう時に、船の櫓を削って四尺余の木刀を作った。出発を促す飛脚が何度も来たが、耳をかさずに悠々と遅れた。それが武蔵の考え抜いた戦法だった。

後年、武蔵は自らの剣法の奥義を『五輪書』に表したが、場に応じて自在に身を変え、心を変えることが極意と述べている。「いつくは死ぬる手なり、いつかざるは生きる手なり」の「いつく(居着く)」とは固定化であり、膠着化、硬直化である。固定化せず、自在の境地にあることが、剣法の究極の姿であるとしている。武蔵は禅の実践者であった。

これに対し佐々木小次郎はその長身を利して「より長い刀でより早く斬る」力と速度の信奉者であり、西洋合理主義思想であった。

力と速度は若者が持つ特質であるが、この特質を活かし、信奉した点において、佐々木小次郎は「若者の思想」を代表していると言えよう。

宮本武蔵はその剣を観察力や洞察力、精神力の上に築いた。厳しい修練の末に自在の境地に至ろうとする思想は禅思想であり、いうならば、これが「高齢者の思想」と言えよう。

「若者の思想」と「高齢者の思想」が対決するとどうなるか？

宮本武蔵が勝ったように、高齢者は結局若者には負けない、と言えないだろうか。

<2014.2.17 記>

☆☆☆

## 2014年の夏に思うこと



柴 英夫 (第 23 期)

クロスロードが紙媒体の時は 2~3 度書いた記憶がありますが、e-Crossroads には初めての投稿になります。ビジネス文書臭のないものにしようと思ったつもりですが、さて如何でしょう。

### 《還暦そして定年》

23 期で二番目に若かった私もこの 2 月に還暦を迎えました。山本周五郎の時代小説に「老人」とか「XX 老」という言葉がよく出てきますが、年齢をみると 53 歳とか 55 歳だったりします。単に平均寿命の違いではなく、その頃は早成の反面早く老いていたのでしょね。それだけに「還暦」は特筆すべきことだったのでしょね。

翻って今は「還暦？だから何？」という時代ですね。従って、特別な感慨もなく、息子にも「頼むから、赤いチャンチャンコはやめてくれ」と話したら「もともと考えていないよ」とあっさり言われました。自分で言いながら、理不尽にも少し傷つきました。これが唯一の感慨でしょうか。まあ、家族で会食したのでよいとしましょう。

ところで、最年長だった方の当時の年齢もいつの間にか越えていたのですが、当時その方に感じていた重厚さを自分に全く感じません。周りの私への対応を見ても、私に重々しさなど微塵も感じていないのが、よくわかります。どうも私は、年輪が加える落ち着きや重厚さと無縁の存在のようです。

よく高齢の方が「気持ちは若い」と言われるのと違って、私の場合、純粋に精神年齢が幼く精々 20 歳代後半かもっと下ではないかと最近とみに感じていますが、「在りのまま」(Let It Go)で行きたいと思っています。

さて、春が来ると夏が来るように、還暦になると定年が来ます。3 月末が定年でしたが、合併を含めると 3 社目でしたし、3 カ月契約更新していたこともあって定年そのものには、これまた特別な感慨はありませんでした。その代わり、定年式(社長から定年辞令を貰い暫し雑談するだけですが)に松葉杖をついて参加するという、恐らく前代未聞のエピソードを残しました。社会人最初の入社式での専務講演で専務の目の前で鼯かいて寝たことから始まって、最初から最後までお騒がせな社会人人生でした。

### 《初めて入院手術を受ける》

今回のメインテーマは「私の健康物語」なので、テーマに関するピックを一つ。

定年式に松葉杖をついて参加した、と書いてあるはどういうことか。左足首を骨折して手術をしたからである。どうして左足首を骨折するようになったのか。自転車を運転している際、ハンドルを切りそこなって横転したからである。どうしてその時自転車を運転していたのか。家を探していたからである。どうして家を探していたのか。その時住んでいた借家に持主が帰ってくるようになったため退去しないといけないことになったからである。

お気づきになった方もおられると思いますが、これは「春秋公羊伝」の論法です。これ以上続けると化けの皮がはがれるので、この書き方はこれで止めます。

左足首腓骨骨折は事実で、還暦の 2 週間後、残っていた年休を定年日までに使おうと始めた年休消化期間のまさに初日に起きました。以下、皆

様の参考となりそうなチップを含めつつ簡単にエピソードを書いてみます。

数年前にも横転したことがあるのですが、その時は打ち身で済んだものが今回は骨折と、骨が脆くなっているのは加齢によるものでしょう。皆さんお気持ちは若くとも体は確実に歳取っているのです、くれぐれも(特に自転車の運転には)お気をつけください。

レントゲンで腓骨が幾何学的(横S字)にきれいに折れていましたが、手術しなければ7月過ぎまで松葉杖、手術すれば2週間くらいかな、“Which do you prefer?” 当然手術を選択。実はこの私、入院して手術を受けるのは人生初めて。還暦までよく頑張ったと言うべきか。結局松葉杖を外せるまで1カ月ちょっとかかりましたが、それでも手術しない場合より3カ月以上短縮出来ました。松葉杖はとても不便なので、こういう時は迷わず手術をお勧めします。

生命保険から入院手術給付金が出ます。私の場合担当の営業の女性が親切なこともあって、大した手間ではなかった上、結構な金額になります。危うく「焼け太り」になりそうでした。自分が収めた保険料のほんの一部が帰って来るだけなのですが、是非有効活用ください。

私の一番の関心事は「何時から酒が飲めるか」ですが、先生に聞くタイミングは慎重に測りましたが、先生は開口一番「煙草はダメだよ」と。生来のノン・スモーカーである私にとっては関わりのないことで、お酒の方については「もう飲んでもいいよ」とのこと。その時、嫁さんが診察に立ち会っていました。これが「タイミング」です。煙草は多分ニコチンが骨の成長に悪影響を与えるからでしょうね。喫煙をやめようと思ってもなかなか禁煙出来ない方には骨折は一つのきっかけになるかも知れませんね。(すみません、ブラック・ジョークです)

## 《「サラリーマン西遊記」のお勧め》

23期の我が畏友で現在は奥さんの故郷アルゼンチンで悠々自適(多分)の生活を過ごしておられる堀 哲三郎氏が自費出版した自叙伝です。長州男児が大学時代に日本を飛び出して欧州を放浪し、社会人になっても世界各国に駐在した波瀾万丈の経験を綴った一代記です。

私も入社後はそれなりに山あり谷ありの人生を送りましたが、流石に堀さんの破天荒さには勝てません。一読の価値はあると思います。Youtubeにご本人作成のプロモーションクリップがアップロードされていますのでアクセスしてみてください。Youtubeのリンクは以下です。

<http://youtu.be/EV6NdpEsDT0>

綺麗なお嬢さんの顔と歌が楽しめる上、何と言っても著者本人が顔出ししていないという素晴らしい構成となっています。本には堀さんと思いきイラストがありますが、お嬢さんの顔とこのイラストで本人を想像すると会った時に大きなショックを受けるのでご注意ください(堀さん、ごめんね)。

<2014.7.7 記>

☆☆☆